

# 海外拠点からはじめるERP導入

## 主要国の経済成長見通し

### 日本企業の海外進出動向

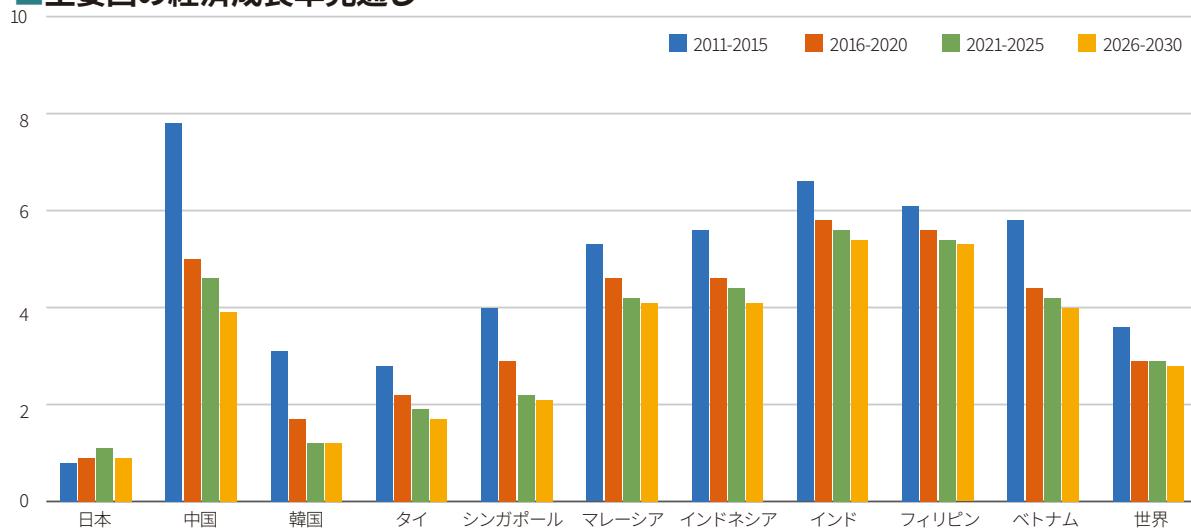
経済産業省が公表している「第47回海外事業活動基本調査」によると、日本企業の海外現地法人数は、やや減少の傾向にあります。北米、アジア、ヨーロッパの現地法人数がいずれも減少しており、アジアでは中国の割合が縮小し、タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピンのASEAN諸国の割合が拡大しています。

業種別では、非製造業の割合が拡大、製造業が縮小の傾向にあります。

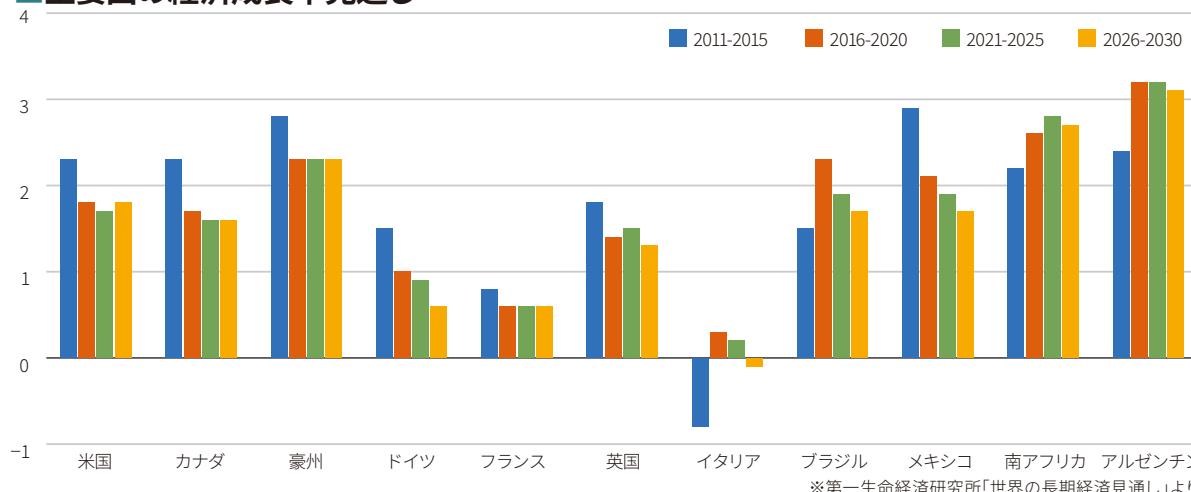
## 主要国の経済成長率見通し

世界経済は、ASEAN、中国、インド各国の高成長率が支えることで、2030年まで3%弱の成長を維持する見通しです。

■ 主要国の経済成長率見通し



■ 主要国の経済成長率見通し



※第一生命経済研究所「世界の長期経済見通し」より

## 2025年の崖、システム刷新を求める経済産業省

2025年には、基幹系システムを21年以上稼働している企業の割合が全体の6割を占めるようになり、企業のIT予算の9割以上が保守運用のために費やされるようになります。一方、IT人材は、2025年の時点で約43万人不足すると試算されており、2025年以降最大で年間12兆円の経済損失は発生するというデータもあります。

### // 2025年の崖 //

DXレポートで指摘された最悪の将来シナリオ

**60%**

基幹システムを21年以上稼働  
している企業の割合

**43万人**

IT人材不足

**9割以上**

IT予算における保守運用費  
の割合

**最大12兆円**

システムの老朽化に起因する  
経済損失

経済産業省は、「DXレポート」の中で、上記2025年へ向けた最悪のシナリオを2025年の崖と呼び、最悪のシナリオを回避するために企業のシステム刷新を集中的に推進する必要があると記載しています。

主な原因、課題は下記の図ようになります。

#### 原因

既存システムが  
事業部門ごとに構築されている

全社横断的な  
データ活用ができない

長年運用する中で  
内部構造が複雑化

IT部門にとって  
ブラックボックスになっている

#### 課題

ブラックボックス化した  
既存システム

日本企業の  
デジタル変革が  
進まない

## グローバル市場へのERP導入

前述の海外市場動向、2025年の崖を念頭へおいた場合、海外でのERP導入は待ったなしの状況にあることにお気づきかと思います。では、海外でのERP導入を考えた場合、どのように進めるのが効率的なのでしょうか。

以下に、国内導入、海外導入の比較、理想的な順序をご説明します。

### 国内導入、海外導入の比較

	国内導入	海外導入
業務の複雑さ	△：取扱い品目は多く業務は複雑	○：取扱い品目は少なく業務は単純
業務改善の進め易さ	△：現行業務のやり方に拘る傾向	○：現行業務のやり方に拘らない
ERP導入のアドオン量	△：アドオンが多くなる傾向	○：アドオンが少なくなる傾向
ERP導入期間	△：9か月～13か月	○：3か月～6か月
ERP導入費用	高： 数千万円～数億円	安：数千万円
特徴	ERPの標準機能に合わせにくく、アドオンが多くなり、導入期間も長く、費用も大きい	ERPの標準機能ベースでの導入を行い易く、導入期間も短く、費用も小さい

### ERP導入の順序

	国内導入→海外展開	海外導入→国内展開
ERP導入方式	国内で構築された重いシステムから機能を削減していくやり方	海外で構築されたシステムを骨格に機能を追加していくやり方
ERP導入全体費用	△：費用を抑えにくい	○：費用を抑えられる可能性がある
特徴	国内で構築された重いシステムがそのまま使用されやすく、海外業務に適合しにくい	海外で構築されたベース機能があるため、それに合わせ易く、機能を軽くすることができる

グループ内のERP導入・展開に関しては海外導入から国内展開の方が効率がよく、費用も安価になります。

## グローバル統合（システムの共通化）

グループ全体のITコストを削減し、システム管理を効率化するためにも基幹システムをグローバルで共通化することは重要です。グローバルで共通化することによって、運用保守の集約化も実現ができるようになります。

### 多くの企業で発生している問題

多くの企業で、本社側の統制がゆるく、各海外拠点で独自に基幹システムを導入し、運用されている状況が多くあります。そこで発生している問題点としては、以下のようなものが上げられます。

基幹システムの機能が合わなくなっている  
正在する

基幹システムの機能を修正したいが誰も直せない

基幹システムの一部の機能しか使用していない

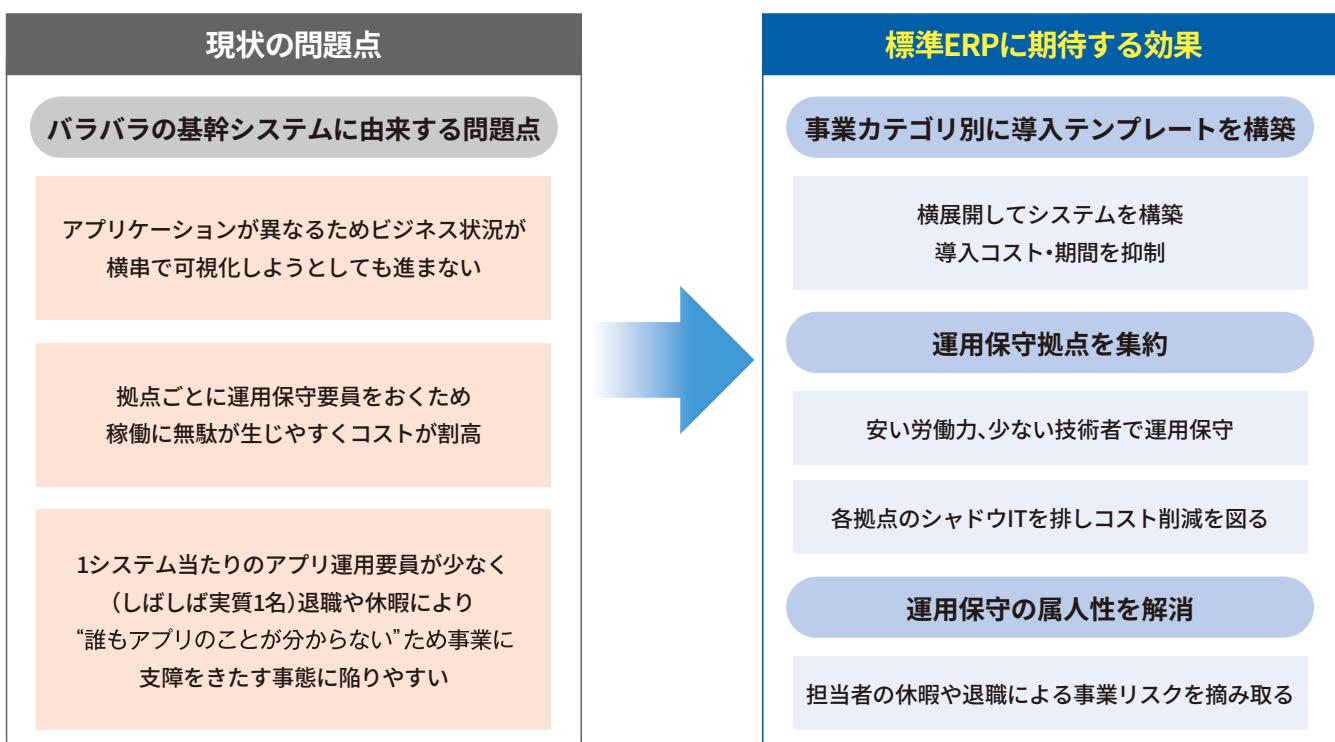
データ量が増えて来てパフォーマンスが悪くなっている

基幹システムの適用パッケージのサポートが切れる

基幹システムを利用しているが業務効率化になっていない

### システムの共通化（大手グローバル製造業の事例）

**【目的】**事業部、拠点によってばらばらであったITインフラ、アプリケーションをグローバルで統一し、企業規模に合う最適なERPを導入することでコスト削減を実現する。



## 「海外ERP導入」ゴグローバル統合」の実現

海外 ERP の導入による業務改善、ならびに、それによるコスト削減といった効果を着実に効率的に上げるためのポイントは、次の通りです。

### 海外、国内展開の順番

海外拠点から導入展開をはじめるのか、国内からにするのか、見極めをすることが重要です。多くの場合、海外の拠点、しかも既存よりも新規の拠点からの展開を始めた方が効率的でコストの削減にも繋がります。

グローバル企業として経験豊富なパートナーと共に、失敗のないように進めて行きたいところです。

### グローバル統合の重要性

システムの共通化によるグローバル統合は、システムの管理運営の面だけではなく、コストの削減、経営効率化、攻めの IT 投資のためにも重要なものです。グループ内の情報がグローバルに統合されることによって、はじめて真のグローバル経営が実現可能になります。グローバル市場で海外の強力な競合他社に対抗していくうえでも、システムの共通化を推進していくことが必要です。

弊社では、多くの企業で採用が進んできている Dynamics の ERP 機能をベースとしたテンプレートの機能をさらに拡張していくことで、ご採用いただく企業でのシステム投資を抑え、かつ、大きなシステム再構築効果を上げられるように今後も努めていく所存です。

また、弊社では上記観点で、システム再構築による省力化の定量効果測定のサービスを行っています。ヒアリングを実施の上、TOBE 業務モデルの作成、ERP 適合性評価 (Fit&Gap) を経て、より精度の高い投資対効果を導き出します。

富士フィルムデジタルソリューションズは大手グローバル製造業への長年にわたる  
ERP導入の経験とノウハウを生かしたERP導入支援サービスを提供しています。

#### Dynamics 365 関連サービス



Microsoft Dynamics  
導入支援サービス



Microsoft Dynamics  
連携ソリューション



ERP 情報化企画サービス